



なつかしい未来創造 —京都府八幡市観光まちづくり推進プロジェクト—



DATA

- 主な連携先・メンバー
八幡市役所政策推進課／一般社団法人八幡市観光協会／一般社団法人石清水なつかしい未来創造財団
- 活動地域
京都府八幡市
- 活動期間
2018年度～2019年度
- 活動資金
関西大学地域連携活動に対する補助事業

活動の目的

- 1 八幡市の観光まちづくり構想およびその実施プロジェクトに参加することで観光まちづくりに貢献すること
- 2 学生によるフィールドワークの実施により、机上だけでは完結しない実践的な知識とスキルの習得を目指す



連携にいたる経緯

八幡市の「観光まちづくり構想」の策定に事業代表者が参画。そこで大学と連携したまちづくりを考えておられることを知り、ゼミも参加させていただくこととなった。同市が実施した観光モニターツアーにゼミ生が参加したことで、以後ゼミのフィールドワークの対象となった。

活動内容

京都と大阪の中間に位置し、ベッドタウンとして発展してきた八幡市は、高齢化と人口減少で徐々に活気が失われつつある。そこで、地元の資源である寺社仏閣と、古くから地元を引き継がれてきた茶文化・茶産業を学生の目で見直して観光まちづくりを共に考えることとなった。まず、八幡市橋本地区、男山、松花堂庭園等の歴史・文化・自然資源、その他関係する観光資源の調査を実施するとともに、その活用について現地で意見交換を実施。八幡市には英文の観光案内図はあるものの、外国人観光客にとって本当に必要な情報が掲載されていないため、外国人観光客対象の観光指差しマップの作成を行うことになった。

マップの作成に当たっては、ゼミ生全員からマップの原案を集めて基本型を決定。内部で簡単なコンテストを行ったうえで作図担当者を決め、改めて八幡市の現地調査を行い原図を完成させた。

また、川沿いの良質な茶栽培が八幡市の歴史ある産業の一つであるので、茶を使用した特産品の開発も試みた。茶の栽培現場や関連する先進地域の調査を実施し、既に多様な茶の利用がなされていることが分かる中で、学生の目線から未だ商品化されていない商品のアイデアを話し合っって事業化の検討を行った。

活動の成果

- 1 市内の顕在的・潜在的な観光資源の掘り起こしと活用策の検討ができたこと
- 2 外国人観光客向け八幡観光マップの原図の完成
- 3 茶を利用した特産品の企画

今後の課題・目標

- 1 観光マップの印刷と観光協会等への提供
- 2 特産品の試作
- 3 地域連携の継続・展開

教員紹介



■ 政策創造学部 教授

橋本行史

Koushi Hashimoto

地方行政、地方財政、地域産業を研究の専門領域にする。地方の行財政改革のほか、最近では地域活性化やまちづくりを対象に加えて、研究と社会活動に取り組んでいる。